

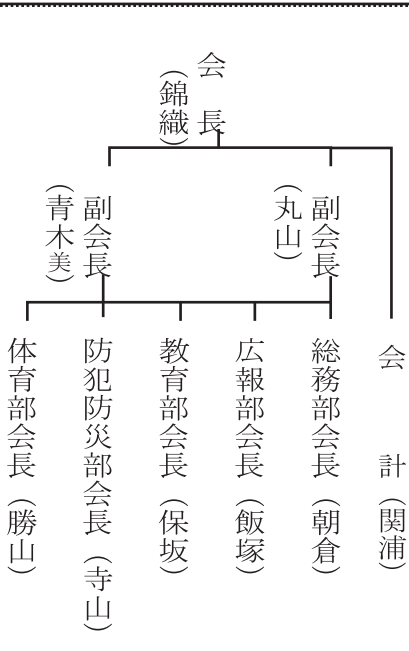
真鶴 自治会だより

ふれあい・思いやり・たすけあい

まちづくりと自治会

今年度自治会は改選の年である。城北自治会長が交代し、また複数の自治会で副会長に変わった。別記のとおりになった。行政関連では昨年九月新町会議員が選ばれ、その議員の方々の懇談会については、三月の「自治会だより」にてお知らせした。この六月には町長選挙がある。この選挙に関連して近隣の合併問題が論議され始めた。私たちの町には「美の基準」と云う立派な条例がある。この条例は長年にわたり研究・討論を重ねて作った国内はもちろん海外にも誇れる条例である。先日の「まちづくりシンポジウム」には国の内外から大勢の参加者があり、熱心な討議と多くの意見があった。あんなに大勢の町外の方が訪れたのは「美の基準」を持つ真鶴町を自分たちの目でつぶさに確かめたかったからではないだろうか。この討議を通じて、まちづくりは行政と住民との協力が非常に大切であると深く胸の内に刻み付けられた。

最近、町当局からまちづくり計画に住民の参加を呼びかけているが、応募者が極めて少ない。これは過去「まちづくりはお上が決めるもの」との思いが流れていないか。ともかくトップダウン（行政から町民へ）がこれまでであり方、最近「住民参加」という言葉が多く使われているが、実態が伴っていない。



これは行政だけの責任ではなく、住民も多分に反省が必要だ。今までは難しいこと、面倒なことは行政に処理させる、言い出しっぱなしにはなりたくない、という考えが底流にあったと思う。これからのまちづくりは、住民の意向が尊重され、多くの計画に反映されるであろう。後でとやかく言わず、計画段階から参画し、安全で明るく住みよいまちの実現に行政と苦楽を共にしなければならぬと思う。

「夜光虫の住む海」の回復は一朝一夕にはできない。若い人たちの知識と力を基盤に、未来に向かって活動する時代になった。トップダウンからボトムアップ（住民意向反映）へ、体制を交換することの大切さを痛感する。各自治会は隣組活動の活性化を図り、行政と連携し、まちづくりに知恵を絞り行動する時代である。その根源はお互いが支え合う親睦にある。組織は別項のように一見段階型であっても意思の疎通と行動はネット型の運営でなければならぬ。自治会員の皆様はもちろん、自治会外の皆様にもご理解とご協力をいただきたいと切に願います。（連合会長 錦織潔）

平成14・15年度自治会連合会役員

自治会名	会長名	副会長名	副会長名
山ゆり	寺山武	露木高男	中村孝
岩中央	朝倉正晴	勝又功	力吉信
土肥道	丸山友吉	岡野好延	青木孝夫
みさき	保坂英男	平井義行	下山一夫
城北	関浦勝美	矢野正義	岩本克美
城口	青木美喜男	相良豊	青木康浩
丸山	飯塚潔	水野彌一	原沢憲一
西	勝山茂樹	木村工坪	橋本昭弘
東	錦織潔	松本豊	秋澤行雄

新役員就任あいさつ

はじめまして、四月から城北自治会長として就任し、早くも二か月が経ちました。城北自治会も発足以来七年が過ぎ、お陰様で当自治会の加入世帯数は、三二〇世帯です。現在も住宅建設が進んでおりますので、人口の増加も予想され、私たち自治会役員一同は、未加入世帯が加入するよう心を込めてがんばります。広報をもっと活用し、防犯防災活動、福祉事業、文化事業、体育振興など、町と地域の連携を緊密にし、健全な発展に寄与すると共に町民一人ひとりのふれあいを通じて、町民の皆様の理解と協力により、自治会組織の機能を高め、さらに自治会連合会の活動を通して、地域のリーダー、ボランティアの育成、活動団体への支援を行い、「明るく住みよい地域づくり」に努めたいと思います。

まだまだ未熟な新米役員で、何をどうして良いのか分かりません。先輩諸氏のご指導を得ながら活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

（城北自治会 関浦勝美）

部会報告

総務部会

温暖な気候の住みやすい町、良好な環境や美しい景観、自然と共生し豊かな暮らしを守るため「美しさ」を見直そうと五月十八・十九日に「美しい都市を創る」まちづくりシンポジウムが開催されました。真鶴町の美しいところ、自然の生態系を守り、息づくようにしていきたいと思いました。

自治会連合会には事業運営を円滑にするため、総務、広報、教育、防犯防災、体育の五部会があり、それぞれ行政への協力が、町民の皆さんへの広報・広聴に努力を重ねています。

連合会会則中、「総務」の事務として

- 一、事業計画の立案、会則に関する事
- 二、各部会の連絡調整をし、会議の記録及び資料の配布に関する事
- 三、自治会組織の強化育成外部団体との連絡調整に関する事

連合会では、事業計画とは別に、協議の課題としてすでに色々な場所で話題になっている真鶴半島の問題、少子化が進む小学校統合問題、そして合併問題等を外部団体と懇談会（連絡会）を持ちながら逐次町民に「自治会だより」等を通して情報を提供し、町民と意見交換ができる雰囲気をつくるようにしていきます。

（総務部会 朝倉正晴）

広報部会

自治会連合会の「自治会だより」は、編集方針として、昨年より読みやすい自治会だより、身近な壁新聞となるように努めてきました。多少変わりましたが、報告事項は、自治会活動を基に作成しています。また、皆さんのからの投稿も募集していますが、まったくないのが現状です。掲示板というコーナーを設けています。どんなことでも構いませんので、投稿してみてください。貴重な予算の中で発行している自治会だよりです。有効に利用してみたいかがでしょうか。一万弱の小さな町、同じ町に居住していなから真鶴町のことでまだ知らないことがたくさんあるかも知れません。身近な情報、知っていて得ること、豆知識など皆に教えてください。ただし、個人的な批判中傷記事は、ご遠慮願います。頂いた文章は広報部編集委員会で検討させていただきます。

なお、投稿文章は、各自治会長までお持ち願います。

(広報部会 飯塚 潔)



教育部会

第三次真鶴町総合計画がスタートして今年が三年目、教育部会は、「町民憲章具現化」ということから、まず地域に根ざした生涯学習の実践活動推進に努めています。今日、人生八十年という時代を迎え、社会が複雑多様化する中、また情報化時代とも云われ、社会生活を送るうえで絶えず新しい知識、技術を習得していくことの必要性が高まっています。高齢少子化が進むこの時代をどのように過ごすかが私たちに課せられた課題でもある訳です。人それぞれに生活環境の違いはあっても、幸福に暮らしたい、毎日を楽しく過ごしたい気持ちは変わりないと思います。

文化、教養、健康、趣味等々、学習講座が開設されています。各分野で豊かな知識を得ることで社会参加ができ、活力ある自分の生活やまちづくりに活かすことができると思います。自治会連合会は、「成人として心豊かな生活を求め、暮らしに生きる知識と教養を高める」を趣旨に成人学級を開設、今年度前期成人学級は「環境といのち」をテーマに開催します。

町民の皆様の積極的な参加を期待し、夢と希望が生きる町、そして生きがいと安らぎに満ちた美しいまちづくりに努めてまいります。

(教育部会 保坂英男)

防犯防災部会

災害発生時には被害を最小限におさえられるよう、その心構えを町民一人ひとりが日常生活の中において常に考えていなければならない。春の地域安全運動、自主防災組織研修会、夏季防犯パトロール、普通救命講習会等、このような訓練・講習会には一人でも多くの参加を望みたい。

自主防災組織とは予想される災害から自分を守り、財産を守るためには、一人ひとりが普段から十分な準備をしておくことが最も大切です。しかし、個人の力には限界があって、大きな災害に一人で立ち向かうことは困難で、危険が伴う場合もあります。このような時、毎日顔を合わせている隣近所の人たちが協力し、助け合える組織があれば？この組織が「自主防災組織」です。防災について理解や協力を得るための参加を積極的と呼びかけ、毎年九月に総合防災訓練が行われますが、一人でも多く参加し、体験して防災対策を考え、対応を決めておきましょう。日頃の備えが大切です。まず、災害が発生したら、あわててしまつてなかなか行動できないかもしれない。そこで落ちて着いて行動できるようにするための、あらかじめ誰が何をやるのか、各家庭での役割分担等決めておくのも良い方法でしょう。「地域の救助活動を手伝い自主防災組織活動には進んで参加協力をしましょう。」

(防犯防災部会 中村孝)

体育部会

本年度すでに、実施した町民ソフトボール大会の結果をご報告します。今後も町民の皆様の協力をよろしく申し上げます。なお、七月以降の体育予定事業は次のとおりですので、皆様お誘い合わせのうえ、ご参加願います。

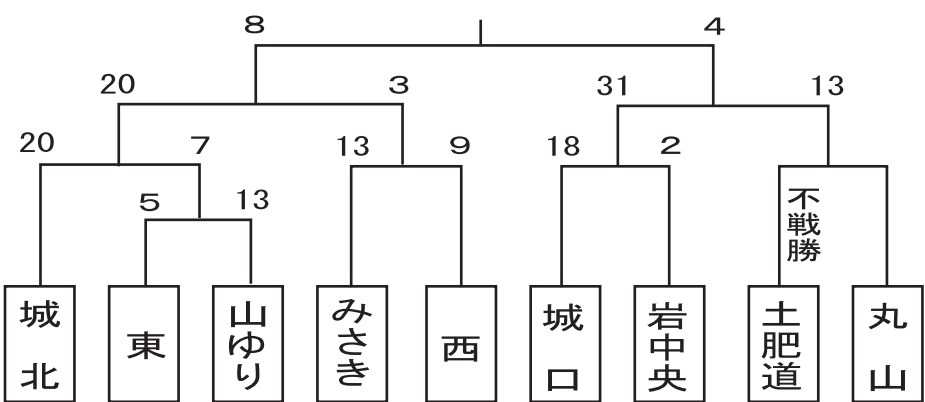
九月 町民ソフトボール・ソフト
バレーボール大会
十月 町民運動会

(体育部会 丸山友吉)

第24回春季町民ソフトボール大会結果

日時：平成14年4月28日(日)
場所：真鶴中学校グラウンド

優勝：城北自治会
準優勝：城口自治会
第3位：土肥道自治会
みさき自治会



「子ども・若きネットワーク」

七月、「社会を明るくする運動」強調月間。少年による凶悪事件を始め、子どもをめぐる様々な問題が生じています。その解決の一つとして、子どもも大人も誰もが支え、支えられていることを実感できる地域社会づくりを進めること。そのためには、子どもが「いきいき」として、自分の存在を大切に思うこと。それには自分を受け止めてくれる人や場所が必要です。

今、大人に求められているのは、子どもに「自分は本当に愛されている」という実感を持たせ、また地域の中に「居場所」をたくさんつくること。そして「本気」で生きている姿を見せること。

人は一人では生きていけず、家族を始めとした地域社会の助けがあつてこそ人は「いきいき」することができるのです。

子どもをめぐる問題は、大人の問題でもあることを認識し、広げよう、ネットの輪・・・。

東自治会 (秋澤行雄)

